1/16 土 朝

GDP 年2.1%減

3期ぶりマイナス成長

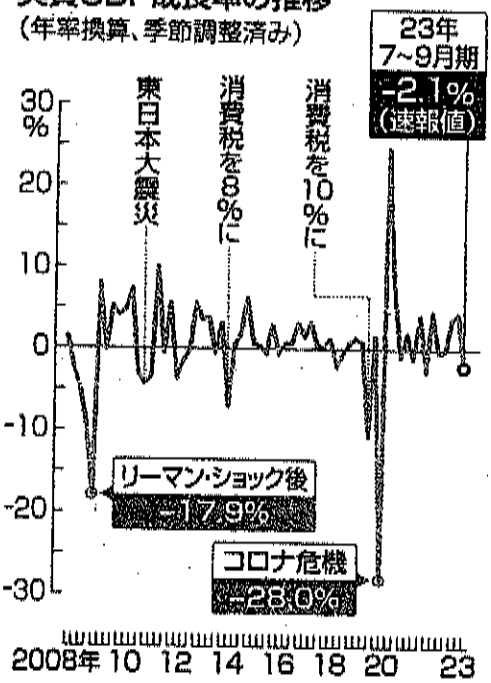
7～9月期

内閣府が15日発表した2023年7～9月期の国内総生産（GDP、季節調整済み）速報値は、物価変動の影響を除いた実質で前期比0・5%減、この成長が1年続いた場合の年率換算で2・1%減となりました。マイナス成長は、過去のデータが改定されたため3四半期ぶり。物価高の影響で消費の低迷が続くなど内需が全体的に不振で、輸入の増加も悪化に寄与しました。

↓関連❽面

需要項目別に見ると、GDPの5割超を占める個人消費は前期比0・04%減で、2期連続のマイナスでした。外食や携帯電話端末の購入が増加した一方、自動車は減少しました。物価高の影響で食料品も落ち込みました。設備投資は0・6%減と2期連続のマイナス。半導体製造装置などが不振でした。資材価格の高騰が響き、工場などの建設投資も減少しました。

輸出は0・5%増と2期連続のプラスとなりました。自動車の輸出がけん引しました。一方、統計上は輸出に計上されるインバウンド（訪日客）消費額はマイナスに寄与しました。

物価変動の影響を反映し、生活実感に近い名目GDPは前期比0・04%減、年率0・2%減と4期ぶりのマイナスでした。

実質GDP成長率の推移
（年率換算、季節調整済み）